

平成29年9月秋田市議会定例会一般質問者順序

秋 水 会 細 川 信 二

そ う せ い 齊 藤 勝

公 明 党 石 塚 秀 博

フロンティア秋田 伊 藤 巧 一

社会・市民連合 長 澤 孝 政

共 産 党 佐 藤 純 子

秋 水 会 川 口 雅 丈

秋 水 会 熊 谷 重 隆

秋 水 会 工 藤 四 郎

1 芸術文化ゾーンの形成等について

(1) 県・市連携文化施設の整備等について

ア 同施設に求める日常的なにぎわい創出とホール等を活用した文化創造の両立は、文化施設としては中途半端なものになることを懸念するが、中心市街地に芸術文化ゾーンを形成する上で、どのような施設にしようとしているのか

イ 県民会館が解体され同施設が整備されるまでの約4年間、大きな公演や市民の文化活動ができなくなるが、既存の類似施設の周知や大きな公演等の実施に対する具体的な支援策を示すべきと考えるがどうか

ウ 芸術文化ゾーンの形成や同施設の整備に当たり、市民プロオーケストラを結成する考えはないか

(2) 旧県立美術館の利活用について

ア 同館の施設機能を確定させるに当たり、今後、どのようなプロセスを経ていくのか

(3) 千秋公園の再整備等について

ア 芸術文化ゾーンの形成と旧県立美術館の利活用を考えるに当たっては、千秋公園の再整備のあり方と現地建てかえにふさわしい佐竹史料館の機能が示されないことには判断できないが、それらについてどのようにイメージし、いつごろ示そうと考えているのか

2 泉・外旭川新駅（仮称）の整備等について

(1) 費用便益分析の再算定に当たり、類似駅を羽後牛島駅から土崎駅へと変更した理由は何か

(2) 同駅は、完成後はJR東日本により管理・運営されるが、秋田市公共施設等整備基金条例にうたわれている公共施設等と言えるのか、また、同駅の新設は、同条例第6条に該当するのか、さらに、今後、公共施設等の更新が集中するが、同基金の取り崩しによる影響はないのか

か

(3) 本市の将来的な人口予測を踏まえ、新たなバス路線の考え方などを組み入れた本市の公共交通体系の構築を早急に進めるべきと考えるかどうか

(4) 同駅の駅前広場の駐車場は狭隘と感じるが、同駅周辺でパーク・アンド・ライドを実施する考えはないか

3 秋田港の振興について

(1) 県が進める秋田港長期構想の策定に当たり、同港が所在する市として秋田港長期構想委員会で主張したことは何か、また、同構想にあるインバウンド対策を初めとした観光施策を進める上で、さまざまな観光施設を有する本市の果たすべき役割は大きいと考えるが、どのように対応しようと考えているのか

(2) J R 貨物秋田港線の活用等について

ア 竿燈まつり期間中に試験運行されたクルーズ列車の評判や課題はどうか、また、来年度以降の本格運行やクルーズ船乗客以外の利用の可能性について、どのように考えているのか

イ 秋田臨海鉄道南線を活用した観光列車導入の考えはどうか

(3) 平成31年度の「全国豊かな海づくり大会」の本市開催が決定したが、同大会をどのように認識し、どのように準備を進めていこうとしているのか、また、同大会の周知やイベントの実施、市独自のイベント開催についての考えはどうか

(4) 秋田港港湾計画に示されている内港地区は津波浸水想定区域であるが、同地区で働く人の避難経路や避難場所の確保はどうなっているのか

4 観光振興について

(1) NHKの人気番組「ブラタモリ」の取材を誘致し、千秋公園を初めとした本市の観光資源を効果的にPRする考えはないか

(2) 県内13市で開催予定の高橋優氏が主催する野外音楽フェスを早期に

招致し、多くのファンに本市の魅力をアピールする考えはないか

5 子育て支援について

- (1) ソーシャル・ネットワーキング・サービスを活用し、予防接種や健診、保育サービス等に関する情報等を発信する考えはないか
- (2) 市内で開催されるイベント等に、乳幼児への授乳やおむつ交換ができる「移動式赤ちゃんの駅」を設置するため、テント等の貸し出しをする考えはないか

6 ホストタウン交流計画の推進について

- (1) 同計画の実施にかけた経費とその内訳はどうなっているのか
- (2) これまでの事前合宿誘致活動に対するフィジー共和国の感触はどうか、また、事前合宿誘致ができなかった場合のその後の対応をどのように考えているのか

7 市政情報の発信について

- (1) 各種施策の市民への周知に当たっては、インパクトのあるキャッチコピーを用いてポスター等を作成し、市内の公共施設等に掲示してはどうか

8 地域の諸課題について

- (1) ユネスコ無形文化遺産に登録された「土崎神明社祭の曳山行事」に対する支援等について
 - ア 同行事へのこれまでの支援の成果について、どのように認識しているのか、また、今後の支援の拡大についてはどうか
 - イ 今後の本市の観光振興に同行事や北前船をどのように位置づけていくのか
 - ウ 秋田市土崎みなと歴史伝承館（仮称）の開館後の所管は市民生活部となる予定であるが、観光振興や平和に関する施策の推進などは他の部局の所管であり、どのように連携をとっていくのか

1 災害時の対応について

- (1) 今般の豪雨災害への対応を検証し、線状降水帯やゲリラ豪雨等の水害の際に市及び市民がとるべき対応を再検討すべきと思うがどうか
- (2) 避難所における市民への情報提供が不足していたとの声があるが、どのように認識しているのか、また、今後の対応はどうか

2 人口減少対策について

- (1) 本市の人口減少の原因をどのようにとらえ、どのような人口減少対策に取り組んでいるのか、また、これまでの取り組みに手ごたえを感じているのか
- (2) 2040年の本市の人口について、国立社会保障・人口問題研究所による推計人口と秋田市人口ビジョンで目指すべき人口とでは約2万5,000人もの差があるが、どのような対策により本市の目指すべき人口を達成するのか

3 魅力ある就職先の確保について

- (1) 上場企業など、魅力ある就職先を確保する必要があると思うが、本市が行っている企業誘致等の取り組みについて、他自治体と比べてすぐれている点は何か、また、それらの利点をどのようにPRしているのか
- (2) 本市が戦略的に誘致している企業について、目標及び成果はどうか

4 中心市街地のにぎわいについて

- (1) 県・市連携文化施設開館後、人や車が同施設に行きやすくする工夫が必要と考えるがどうか
- (2) 広小路と中央通りの対面通行は、中心市街地の利便性の向上やにぎわいの創出のために必要と思うが、市としてどのように考えているのか

5 秋田北/農/工/商共存型まちづくり構想について

- (1) 同構想に対する市の考えを示してもなお、同構想の実現を求める多くの市民の声を市長はどのように受けとめているのか
- (2) 平成27年11月の同構想に対する市の検証結果について、イオンタウン株式会社の意見を聞く機会を設ける考えはないか、また、行政・議会・同社で協議会を設置する考えはないか

6 外国人観光客をふやすための取り組み等について

- (1) 本市に宿泊した外国人観光客数の現状はどうか
- (2) 本県の外国人宿泊者数が隣県と比べて伸び悩んでいる主な要因は何か
- (3) 秋田ソウル国際定期便の運休について、市としてどのように考えているのか
- (4) 外国人観光客の国別の今後の見通しはどうか、また、外国人観光客をふやすために具体的にどのような観光プランをPRしていくことで、他都市と比べ優位性が保てると考えているのか

7 教育行政について

(1) 小中学校の適正配置について

ア 小中学校の適正配置に当たっては、児童・生徒の学習環境の向上を願う保護者等と、学校を中心とした地域づくりや地域の担い手づくりの機能強化を願う地域住民との合意形成が最も重要な課題であると思うが、どのように課題を解決し統廃合を進めていくのか

イ 中長期的かつ全市的に考える小中学校の適正配置の実施には時間がかかることから、現在複式学級を持つ小学校の対応を早急に考えるべきと思うがどうか

(2) 小中学校のトイレについて

ア 小中学校のトイレの洋式化をさらに推進すべきと思うが、現在の整備状況と今後の予定はどうか

イ 小中学校のトイレの改修時には、各学校のトイレの広さや事情等を勘案した上で、トイレを明るく、楽しくするような工夫をすべきと思うがどうか

ウ 小中学校のトイレの改修にふるさと納税を充てることをPRし、寄附金を募ってはどうか

- 1 平成29年7月の豪雨災害に係る農業被害等の復旧支援について
 - (1) 農業被害における現在の災害復旧の状況と復旧のめどはどうか
 - (2) 被災農業者の経営維持を図るため、どのような支援を行っていくのか
 - (3) 早期復旧にかける決意はどうか

- 2 都市内地域分権と防災対策及び災害対応について
 - (1) 本市の現在の共同備蓄指定品目の備蓄の実態は本来の最低限備蓄すべき数量に足りているのか、また、どのような計画に基づき備蓄をしているのか
 - (2) 各市民サービスセンターの備蓄品は、最低備蓄数量ではなく、不測の事態に備え、余裕のある数量を備蓄すべきと考えるがどうか
 - (3) 市民サービスセンターが廃校した校舎のスペアキーを管理し、緊急時には所長の判断により避難所として使用できるよう、災害時の市民サービスセンターの役割を拡充すべきと考えるがどうか
 - (4) 今回の災害における対応をどのように検証しているのか
 - (5) 本市が住民自治の理念の柱に掲げる都市内地域分権の実現に向け、防災対策及び災害対応について、本市の目指す姿とのギャップをどのように認識しているのか
 - (6) 今後、都市内地域分権を一層充実させるためにどうあるべきと考えているのか

- 3 指定避難所のトイレの洋式化について
 - (1) 本市における指定避難所のトイレの洋式化の整備状況はどうか
 - (2) 「高齢者にやさしい都市」の実現を目指してさまざまな事業に取り組み、エイジフレンドリーシティを標榜する本市として、指定避難所のトイレの洋式化整備の実態をどう認識し、トイレ洋式化の推進をどのように考えているのか

(3) 指定避難所のトイレの洋式化の整備には多額の費用がかかるため、優先順位を定め、年次計画を策定した上で着実に整備を推進していくべきと考えるがどうか

4 備蓄品の衛生管理について

(1) 本市が共同備蓄する備蓄品は、どのような方法で衛生管理されているのか、また、本市が管理する保管場所の換気設備の整備状況はどうか

(2) 衛生管理の行き届いていない備蓄品が混在していたという事例をどのようにとらえ、今後の対策にどう生かしていくのか

5 避難所運営に当たる職員の健康管理について

(1) 避難所運営に当たる職員の休憩スペースの確保、任務の交代や通常業務までのインターバルの確保等について、どのように計画し実施されているのか

6 強制排水するためのポンプ設備の整備等について

(1) 古川の水門が閉鎖されるべき事態になった際、水門の管理者である国土交通省秋田河川国道事務所と古川の河川管理者である本市との間では、どのようなルールのもとに情報共有や連絡調整が行われるのか、また、水門が閉鎖された後の市の対応マニュアルは整備されているのか

(2) 7月23日に水門が閉鎖されるとの連絡を受けた際、古川から強制排水するためのポンプ車の借用等について、同事務所とどのようなやりとりをしたのか

(3) 古川の水門が閉鎖される際に同事務所と本市との連携がうまくとれなかったのはどこに原因があると考えているのか、また、その反省を踏まえ、今後生かすべき対策をどのように考えているのか

(4) 本市が主体的に強制排水するためのポンプ設備を整備することが必要ではないか

7 市民協働レポートの活用について

- (1) 市民協働レポートの取り組みを積極的に推進し、平時はもとより、災害に強いまちづくり及び地域づくりのためのシステムを整備すべきと考えるがどうか

8 緊急告知ラジオについて

- (1) 今回の災害においてどれほどの成果が得られたのか、また、どのような課題が見えてきたのか、さらに、今後の事業拡大についてどのように考えているのか

9 災害時におけるドローンの活用とモバイル映像伝送システムについて

- (1) 今回の災害において、ドローンの活用によりどのような成果が得られたのか
- (2) 今後のドローンの活用をどう拡大していこうと考えているのか、また、そのための人材育成をどのように行っていくのか
- (3) 今後、ドローンの活用とモバイル映像伝送システムを融合し、より効果的に運用していくべきではないか

10 防災力を高めるための国及び県と連携した対策について

- (1) 今回の災害の教訓を踏まえ、今後、さらに本市の防災力を高めるために、国及び県と連携し、どのような対策を立てていこうと考えているのか

1 市長の政治姿勢について

- (1) 8項目36プランの公約が実現したときには、どのような評価を受けると考えているのか
- (2) 人口減少対策の戦略として、雇用創出こそ必要と思うが、どのような考えを持っているのか
- (3) 市税収入の拡大や移住者の増加を図るには、外旭川地区へのイオンタウン構想の実現も方策の一つと思われるが、どのように考えているのか

2 産業の育成・支援と雇用の創出について

- (1) 自動車や航空機、ICT関連産業などの誘致活動はどのような状況か
- (2) 風力や太陽光発電事業の誘致活動はどのような状況か
- (3) チャレンジオフィスあきたがこれまで行ってきた事業によって、どのくらいの雇用創出につながったのか、また、あきた創業サポートファンドの投資状況と今後の見込みはどうか
- (4) 地元企業の現状と雇用状況について
- (5) 今後の産業の育成・支援と雇用の創出のための施策はどうか
- (6) 官民それぞれの役割について、どのように考えているのか

3 新スタジアムについて

- (1) スタジアム機能をどのように考えているのか
- (2) 県と連携してスタジアムをつくるメリット、デメリットは何か
- (3) どのようなものを核としたスタジアムを検討しているのか
- (4) スタジアム用地として、インターチェンジ付近が望ましいと思われるが、今のところの候補地はあるのか

4 子供の貧困対策の拡充について

- (1) 実態調査の仕方とその調査結果はどうか
- (2) 今後、取り組むべき課題は何であると考えているのか
- (3) 関係機関による連携体制の構築についてどう考えているのか
- (4) 就学援助についてどう考えているのか
- (5) 保護者の就労支援についてどう考えているのか
- (6) 貧困対策の検証、評価の仕方はどのようになっているのか

5 地域づくり交付金について

- (1) これまで、どのくらいの申し込みがあったのか
- (2) 地域づくり交付金を活用したことで、地域がどのように変化したのか
- (3) 「若者枠」は、どのような事業で、対象者や交付額はどのようになっているのか

6 接遇について

- (1) 接遇改善のための研修はどのように行っているのか
- (2) 顧客満足度調査について
 - ア 調査方法、結果及び公表について
 - イ 課題への対応について
- (3) 接遇改善に向けた今後の取り組みについて
- (4) 庁舎1階のフロアマネジャーについて
 - ア 1年が過ぎて案内の対応はどうか
 - イ 接遇研修等はどのように行っているのか

7 人事評価制度について

- (1) 能力評価と業績評価の仕方とそのための時間確保について
- (2) 業績評価で特に配慮している点について
- (3) 評価結果の活用について
 - ア 人材育成について
 - イ 昇任及び昇給への反映について

- (4) 評価に対する苦情相談・苦情処理について
- (5) 人事評価制度実施における成果と課題について

8 市民サービスセンターについて

- (1) 各市民サービスセンターでは、地域からの要望に対し、どのように対応しているのか
- (2) 業務量に応じた、適正な職員配置になっているのか

9 高齢者コインバス事業について

- (1) 満65歳から満67歳までの利用率はどのくらいと考えているのか、また、事業の効果と課題についてはどうか
- (2) アンケート調査結果はどのように活用していくのか、また、アンケート調査は今後行うのか

10 豪雨災害について

- (1) どのような判断のもとで避難情報を伝えたのか、また、被災地域の情報はどのように収集したのか
- (2) 今回の豪雨災害で一番の問題は何であったのか
- (3) 洪水ハザードマップがどのくらいの効果を発揮したと考えているのか
- (4) 洪水ハザードマップの効果を高めるため、見直しを含め、検討する余地があるのではないか
- (5) 避難の際、ペットの受け入れ体制はどのようになっているのか

1 平成29年7月及び8月に発生した豪雨災害に係る対応等について

(1) 情報の伝達及び地域における対応と対策について

ア 避難情報の伝達方法はどうなっているのか、また、各指定避難所における災害現地情報を把握するための仕組みは構築できないのか

イ 自主防災組織を育成していく中で、特に豪雨災害に対し、地域力を高めるために行政が積極的に推進していることは何か

ウ 水害が多発している地域における具体的な対策は行っているのか、また、行っているとすれば、どのような課題があるのか

(2) 復旧支援策について

ア 総合支援窓口への相談件数はどのくらいあったのか、また、どのような相談内容があったのか

イ 農地・農業用施設の被害状況と今後の支援策等はどうか

ウ 住宅被害に対する復旧支援制度はあるのか、また、自家用車やトイレ、排水設備、ボイラー等の住宅関連設備への被害状況は把握しているのか、さらに、その支援策はあるのか

2 認知症高齢者対策について

(1) 現在、認知症高齢者数はどのくらいと推計しているのか

(2) 認知症高齢者対策の取り組みの進捗状況はどうか

(3) 認知症高齢者が徘徊による行方不明や事故に巻き込まれることのないよう、迅速な連絡、情報共有体制の整備・充実を図ることが肝要と考えるがどうか

3 職員研修の成果及び課題について

(1) 平成28年度の研修で重点を置いた科目は何であったのか

(2) 平成28年度の研修成果と課題をどうとらえ、平成29年度の研修にどのように反映させているのか

4 家庭ごみ処理手数料の無料化について

- (1) 1人1日当たりの家庭系ごみの排出量について、秋田市一般廃棄物処理基本計画に掲げている平成37年度までの数値目標である約480グラムを継続的に達成すれば処理手数料を無料にするのか
- (2) 現在、手数料無料化の検討は全くしていないのか

5 安全性の高い公共交通の確保に向けた取り組みについて

- (1) 市民の安全確保、利用者保護の観点から、第2次秋田市公共交通政策ビジョンに基づき、公共交通の維持、地域公共交通の活性化の取り組みをどのように進めていくのか
- (2) ライドシェアは利用者の安全性が確保できない懸念があることから、導入反対について全国市長会等を通じて国に働きかけるべきと思うがどうか

6 史跡秋田城跡の環境整備について

- (1) 今後も整備が進められる歴史的価値のある史跡公園の維持管理をどのように行っていくのか
- (2) 史跡公園内の遺跡復元などの整備について、今後、どのように取り組むのか

7 水道事業について

- (1) 災害に対する備えについて
 - ア 平成29年7月に発生した豪雨により、水道施設に対してはどのような被害があったのか、また、どのような対応をしたのか
 - イ 水道施設について、今後どのような防災対策をしていくのか
 - ウ 水道施設に被害が発生した場合、他都市などからどのような応援を受けることができるのか、また、応援を受け入れる体制についてはどうか
- (2) 仁井田浄水場の更新について
 - ア 耐震診断結果を踏まえ、更新手法やスケジュールはどうか

イ 更新が完了するまでの間、施設の安全対策についてどのように対応するのか

1 市長の政治姿勢について

- (1) 憲法に自衛隊を明記することについてどう考えるのか
- (2) 日本政府は、核兵器禁止条約に署名すべきと思うがどうか
- (3) 核実験やミサイル発射等の北朝鮮問題について、日本政府が米国政府に対し、話し合いで解決するよう求めるべきと考えるがどうか
- (4) 教育勅語を教育に持ち込むべきではないと考えるがどうか

2 豪雨災害について

(1) 危機管理について

- ア 避難情報が適切に市民に伝達できたと考えているのか
- イ 町内会などに避難訓練の実施を指導・援助すべきではないか
- ウ 市職員は、初動対応として災害警戒対策部等への情報提供と市民への連絡員としての活動をすべきではないか
- エ 各市民サービスセンターの対応や体制に温度差が生じていたが、検証し改善すべきではないか

(2) 指定避難所等について

- ア 運営マニュアルどおりに実施できたか検証すべきではないか
- イ 適切な場所なのか再点検し、見直しをする必要があるのではない
か
- ウ 指定避難所以外の避難者に対しても同様の対応をすべきではない
か
- エ 一定期間の避難所生活を想定した準備を徹底することや、その理
解をしてもらうために丁寧な説明を行うべきではないか
- オ 避難者に対し、災害状況がわかるように情報提供すべきではない
か
- カ 大正寺連絡所のトイレの洋式化やスロープの設置などの課題につ
いて早急に対策をとるべきではないか

(3) 災害復旧について

- ア 町内会と意見交換などを行い、課題解決に着手すべきではないか
- イ 床上浸水への見舞金の増額と床下浸水への見舞金や利子補給などを行うべきではないか
- ウ 床下浸水した住家と非住家を対象とした水害廃棄物の運搬費用を負担すべきではないか
- エ 裏山の地滑りなど個人では除去できない災害への対応は、基準を明確にして助成すべきではないか
- オ 雄物川と支川の合流部の水門にポンプを配置すべきと考えるがどうか、また、ポンプ車を保有すべきではないか
- カ 事業再開のための支援補助金等を創設すべきと考えるがどうか
- キ 市管理の河川のしゅんせつなどを計画的に進め、国・県管理の河川については、強気に働きかけをすべきではないか

3 公共交通について

- (1) 優先すべきは日常生活に必要な地域の公共交通の確保と考えるがどうか
- (2) 持続可能な公共交通網の全体像を示した上で、泉・外旭川新駅（仮称）整備の判断をすべきではないか

4 公民館活動について

- (1) これまでの本市の生涯学習の取り組みをどう評価するのか
- (2) 地域に根差した講座や市民が目標を持ってスキルアップできる講座の取り組みが希薄になってはいないか
- (3) 市の施策を包含した講座などを計画的に取り入れて進めてはどうか

5 教育について

- (1) 学習指導要領の改訂について
 - ア 道徳の教科化は内心を点数化して評価することであり、憲法に違反していると考えがどうか
 - イ 銃剣道を中学校の武道で選択できることについてどう考えるか

ウ 小学校の英語の教科化で教員の負担増が考えられるが、どう解決するのか、また、どう授業時間を確保するのか

(2) 主権者教育についてどう考えるか、また、各世代にどのように主権者教育を行っているのか

6 国民健康保険事業について

(1) 広域化について

ア 加入者にとってのメリットとデメリットは何か

イ 収納については、今まで以上にきめ細かな相談対応をすべきと考えるがどうか

ウ 国民健康保険税をどう見込んでいるのか

(2) 国民健康保険税の減免制度の拡充を図る考えはないか

(3) 多人数世帯や子供の多い世帯の均等割を引き下げるべきではないか

(4) 国への国庫負担増を求めるべきではないか

7 公営等ギャンブルについて

(1) ギャンブル依存症の相談窓口を設置すべきではないか

(2) 今秋、茨島地区に開業しようとしている競輪場外車券売場について、同地区の住民から開業反対の声が寄せられていることを市長はどう受けとめているのか

8 地域の諸課題について

(1) 雄和高尾山レクリエーション施設の高尾山荘と屋外トイレを早期に改修すべきと考えるがどうか

1 スポーツ施設の整備について

(1) スタジアムの整備について

ア これまで2回開催されたスタジアム整備のあり方検討委員会における検討状況は、どのようなものであったのか

イ 同検討委員会には、市としてどのような考えを持って臨んでいるのか

(2) アリーナの整備について

ア 今後、県立体育館の建てかえが想定されるが、構想段階から運用まで市として深く関与できるよう、県市が連携してアリーナを整備する考えはないか

2 複合災害への対応について

(1) 7月と8月のような豪雨に重ねて、地震や津波などの災害が発生した際の対応について、どのように考えているのか

3 千秋公園周辺の環境整備について

(1) 中央図書館明德館のペレットボイラーについて

ア 稼働に関して苦情があると聞いているが、どのような内容のものか

イ 移設したことにより景観上好ましくない状況にあると感じるが、撤去する考えはないか

(2) 千秋公園の内堀について、市民が気持ちよくその周囲で憩える場となるよう、修景の維持に努めるべきではないか

4 人事行政について

(1) 職員のスキル向上のため、さまざまな事業を実施するに当たり、先進地視察を積極的に行うべきではないか

(2) 職員がイベントや災害対応のために週休日等に出勤した際の、週休

日の振りかえや時間外勤務手当の支給等は適正に行われているのか

5 スポーツ行政について

(1) 八橋陸上競技場について、マラソンをする市民がふえていることから、市民ランナーの利便性向上や陸上競技のさらなる普及振興のため、午後6時以降も利用できるよう、ナイター設備を設置すべきではないか

(2) チャレンジデーについて

ア 過去3回の参加を経て、市民の参加意識はどのように変わってきていると認識しているのか

イ 来年も参加する考えているのか、また、参加率向上のため、どのように取り組んでいくのか

6 保育行政について

(1) 待機児童解消のため、送迎保育ステーション事業に取り組む考えはないか

7 家庭ごみ処理手数料について

(1) 家庭ごみ有料化から5年が経過したことを機に、ごみ処理施設整備に係る後世の負担を軽減するためにも、一般廃棄物処理施設整備基金への積立額をふやすべきではないか

8 教育行政について

(1) 新たな教育委員会制度における教育長となり4カ月が経過したが、どのような点において従前との変化を感じているのか、また、それに伴い、対応が必要と感じる点はあるのか

(2) スクールソーシャルワーカーについて、効果的な活用には人員が不足していると考えることから、県に対して増員するよう強く働きかけるべきではないか

(3) 学校運営には地域の協力が必要不可欠であることから、小中学校の

適正配置の検討については、町内会等の団体や庁内の関係部局と連携して進めていくべきではないか

1 市長の政治姿勢について

- (1) 3期目に当たり、最も重点的に取り組むべきと考える施策は何か、また、市長が目指す「暮らしの豊かさを実感できるまち」とはどのようなまちなのか
- (2) 今、市民は市政に何を求めていると思うのか
- (3) 消費者にとって好景気の実感は乏しいとされる中、共同通信の全国自治体アンケートで、市長が景況感を上向いているとした根拠は何か
- (4) 大都市と地方の格差が拡大しているが、人口減少が進む自治体の首長として国に求めたいことは何か

2 人口減少対策について

(1) 雇用の創出と若者の移住・定住について

ア 人口減少に歯どめをかけるには、若者を地元へ定着させることが肝要であり、行政と企業が連携し、就職を控えた高校生や大学生等に地元就職のメリットを発信し、積極的に地元への就職を促すべきと考えるが、本市の取り組みはどうか

イ 若い世代が結婚し子育てしていくための環境づくりとして、女性が働きやすい職場環境や女性を引きつける魅力ある雇用の創出はどうあるべきと考えているのか、また、その考えに基づき、企業に対する指導や支援をどう実践していくのか

ウ 若者の移住・定住を図るためには、本市の魅力を大胆に発信し、他県にはない思い切った施策を講ずるべきと思うがどうか

エ 企業誘致については、他県に比べ大きく劣っていることから、これまで以上に積極的に誘致活動を進め、若者の雇用拡大に資するべきと思うがどうか

(2) 婚活支援について

ア シングルズカフェ秋田をさらに充実させながら、お見合いの仲介や結婚に向けた相談、助言などを行うアドバイザーを育成し、婚活

支援につなげてはどうか

3 7月と8月の豪雨災害について

- (1) 避難情報が出ても、迅速に避難できない高齢者や子供など災害弱者への対応として、浸水想定区域内にある高齢者や障がい者、乳幼児等が利用する施設に義務づけられている避難計画は作成されていたのか
- (2) テレビで避難勧告や避難指示などが出ていても、どちらの緊急性が高いのかよくわからず、市民からはどう対応すればよいのか戸惑いを感じたと聞くが、もっとわかりやすい言葉で避難を呼びかけることはできないか
- (3) 約400世帯が床下浸水し、流れ込んだ水や土砂は極めて不衛生で、放置すれば悪臭や細菌の繁殖、カビの発生などで健康被害も危惧されるが、どのような指導をしたのか
- (4) 浸水被害に遭った世帯の生活を考えれば、住宅の復旧が最優先であるが、甚大な被害を受けた世帯に対してどのような支援をしたのか

4 財政について

- (1) 健全化判断比率及び資金不足比率について、本市で算定した数値をどのように評価しているのか
- (2) 今後の市税の見通しはどうか
- (3) 財政調整基金及び減債基金の残高に対する認識はどうか
- (4) 今後、本市の財政はさらに厳しさを増してくると思われるが、その所見はどうか

5 キナイ半島郡との交流について

- (1) 本市訪問団が交流合意都市であるアラスカ州キナイ半島郡を訪問し、市民間交流の促進等を図ったが、訪問することで得た成果を今後の市政にどう生かしていくのか

6 受動喫煙対策について

- (1) 市役所本庁舎や文化会館では、屋外に仕切られた喫煙所を設置し受動喫煙対策を講じているが、各市民サービスセンターなどでは青空喫煙が多く、適切な分煙環境とは言えないことから、仕切られた喫煙所を設置すべきと思うがどうか
- (2) 市役所本庁舎南側に設置している喫煙所は、バス停にも近く、設置場所として好ましくないことから、他の場所へ移設してはどうか
- (3) 厚生労働省は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて受動喫煙防止対策を強化しており、本市においても快適な分煙環境を整えるため、受動喫煙の防止に関する条例を制定すべきと考えるがどうか

7 無電柱化の推進について

- (1) 本市の顔である中心市街地のにぎわいや美しい景観を保つ上で、無電柱化を積極的に進めてはどうか
- (2) 無電柱化を推進することで、台風や地震などの災害時に情報通信回線への被害を軽減できるほか、災害に強いまちづくりにつながると思うが、本市の考えはどうか

8 農業の課題について

- (1) 7月と8月の記録的な大雨により農作物や農業用施設などへの被害が多く、土砂崩れなどによる水路の崩壊など被害が甚大であったが、本市としてどのような措置を講じたのか、また、復旧の見通しはどうか
- (2) 農業に関する課題として、農業従事者の減少と高齢化が挙げられるが、農業の担い手確保について、具体的にどう取り組んでいくのか
- (3) 米の生産調整廃止で農家の不安が増している中、農家所得をふやすために本市としてどのような施策を講じているのか
- (4) 産業の競争力強化に向けた重点施策として、平成24年度から本格的に6次産業化に取り組んでいるが、具体的にどのような成果を上げてきたのか、また、今後の展望はどうか

9 教育について

- (1) 本市における公立小中学校教員の出退勤の管理体制はどうなっているのか、また、月80時間を超える時間外労働をしている教員はどの程度いるのか、さらに、教員の多忙を解消するための方策を検討しているのか
- (2) 仕事を自宅に持ち帰っている教員もおり、特に部活動の指導教員に多いと聞いているが、それが適正な勤務体制と言えるのか、また、部活動指導等による長時間労働は労働基準関係法令に抵触しないのか
- (3) 山口県宇部市教育委員会では、教員の負担軽減を目的に、嘱託職員として地域から部活動指導員を登録し、市内の中学校へ派遣して効果を上げているとのことであるが、本市において導入は考えられないか
- (4) 非正規教員がふえていると聞いているが、本市の実態はどうか、また、不安定な雇用にもかかわらず学級担任や部活動を任されているケースもあると聞くがどうか
- (5) 2020年度から小学校で英語が教科となることにより、教員の大半が指導に自信が持てず不安を抱えているようであるが、どう解消していくのか、また、教員の負担増が懸念されるがどうか
- (6) 来年度から小学校で新たに「特別の教科 道徳」が全面実施されることに伴い、家庭・学校・地域が三位一体となった道徳教育が必要とされるが、本市の考え方はどうか
- (7) 少子化の影響により、本市では小中学校の適正配置について、望ましい学級数を1校当たり18学級とする基本方針をまとめたが、1校18学級を基準とした根拠は何か
- (8) 小中学校の適正配置は統廃合ありきのように思えるが、各校の校風や歴史文化などを踏まえ、地域の理解を十分に得ることが肝要と考えるがどうか
- (9) 教員の働き方改革について、教育長が考える理想の働き方とはどのようなものか
- (10) 国は、働き方改革に続き、来年度、休み方改革としてキッズウィー

クを創設するとのことであるが、教育長はキッズウィークについて、
どのようにとらえているのか

10 地域の諸課題について

- (1) 秋田市マイタウン・バス南部線について、畑谷・丸山地区を經由させることはできないのか
- (2) 老朽化が著しい秋田市河辺多目的総合センターは解体すべきと思うがどうか

1 市長3期目における公約実現に向けて

- (1) 3期目の選挙を終えて、市民からの市長に対する反応をどのようにとらえているのか
- (2) 新たな公約実現に向けてどのような組織体制づくりをしていくのか
- (3) 市勢の発展を目指す上で、どのような課題があると考えているのか

2 新・県都『あきた』成長プラン推進計画及び秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

- (1) 同推進計画は、昨年度からどのような点が改善、強調されたのか
- (2) 同総合戦略に掲げる人口減少対策により、平成31年度の数値目標を達成できる見込みはあるのか
- (3) 人口減少を食いとめるだけではなく、人口規模に見合った都市経営についても考えていくべきではないか

3 豪雨災害について

- (1) このたびの災害は記録的な大雨に起因すると言われているが、過去の災害と比較してどの程度上回っていたのか
- (2) 市内の雨水管は、どのような基準で設置されているのか
- (3) 農地等に関して激甚災害の指定となったが、どのような手続によって指定されたのか、また、それに伴う被災者や自治体のメリットは何か
- (4) 本市の災害復旧のための予算額は幾らと見込まれ、その財源はどこから捻出しようと考えているのか
- (5) 市外から来た車両が通常のルートで空港に向かうことができず、飛行機に乗りおくれた事案を聞いているが、幹線道路の通行どめなど早急な周知はできないのか
- (6) 人的被害が生じなかったのは、どのような対策によるものと評価しているのか

4 危機管理について

- (1) 災害の発生が予測された際に、自治体の首長がとるべき行動規範はあるのか
- (2) 災害対策本部長が不在の場合においても、災害対応に遅延が生じないような対策は講じられているのか
- (3) 「一級河川雄物川、新波川並びに国道341号改修促進協議会」の活動についてどのように考えているのか

5 消防について

- (1) 消防団の消防ポンプ自動車について、更新や配置の基準はどのようになっているのか
- (2) 本市の女性消防団員は火災現場での活動は行っていないが、活動させることはできないのか

6 交流人口の拡大について

- (1) 各部局の県外・市外から人を呼び込む事業の実施によって、年間どの程度の集客を生み出しているのか
- (2) 年間の集客数を把握し、受け入れ側のサービス向上を目指すことを考えてはどうか、また、民間の力をかりることで集客数を拡大できるものはないのか
- (3) 交流人口の拡大に効果的な事業に対して、優先的に予算をつけるべきではないか

7 農業の振興について

- (1) 本市の中心部を大消費地として、地産地消を政策的かつ積極的に推進すべきではないか
- (2) 完全地産地消を実現するために、生産者側と消費者側に強力なリーダーが必要と思うがどうか
- (3) 地産地消を推進するために、実需者と生産者側の仲立ちをみずから

買って出るような人材を募集してはどうか

(4) 本市を、農業を主体とする住みよい田舎町として売り込んでどうか

8 公用車の運用について

(1) 職員が運転する公用車は何台で、運転者の許可基準はあるのか、また、安全運転励行はどのように行われているのか

(2) ここ数年、職員の車両事故が多く見受けられるが、公用車での交通事故の発生件数と原因はどうか

(3) 安全運転管理者の体制はどのようになっているのか、また、運行計画や運行日誌は作成されているのか